

鳥の眼を
持つ

匠人

シリーズ
Vol.20



第199号
令和4年2月17日
発行 南信濃まちづくり委員会
編集人 南信濃公民館
広報委員会
印刷 龍共印刷
題字 北島新平

私たちの地区
人口(R4.1月末現在)

男	574人
女	658人
計	1,232人
世帯数	650戸
飯田市全域	
人口	98,210人
世帯数	40,069戸

今回、登場していただくのは押出にお住いの森下公正さんです。森下さんは昭和25年生まれの71歳、若い頃は埼玉県の川口で植木屋をやっていたとのこと。ただ長男でもあり、いずれは遠山に帰ってこなければならず、帰ってから植木屋を継続するのは難しいと考え、20歳の頃郵便局に転職したそうです。

豊島区から新宿区と渡り34歳の頃には松本、そして遠山郵便局の局長を最後に早期退職しました。一見「早期退職」とはもったいないと思いがちでしょうが、お話を聞いているうちに納得しました。というのもまあ趣味が多い！しかもそのレベルが半端ないんです。油絵に始まり木彫り、庭造り、バドミントン、錦鯉、なんとログハウスまで手作りしてしまう技術の高さなのです。そんなマルチな才能をお持ちの森下さんが今夢中になっているのが

ドローンを使った空撮です。きっかけは、以前ヘリコプターが撮影してくれた「私の家」という写真でした。「これを自分で撮りたい」と思ったそうです。それから独学でドローンの勉強を重ね今では「遠山ドローン」というチャンネル名で現在19本アップされているかなりのユーザーです。その内容はというと、四季折々の遠山郷の美しい景色が地区ごと映像化されています。我々の限界を超えた、そこそ「鳥の眼」で遠山郷の自然を見せてくれる。夢のような映像なのです。森下さん曰く「これを見て、離れて暮らす人が懐かしんでくれたら」との思いだそうです。同級会で見たところ皆、涙を流しながら見合せてくれたようです。音楽に合わせた遠山郷の美しい景色の映像は、観た人の胸を



モニターと目視でドローンを操縦する森下さん

◎みなみしなのの匠人 vol.20
森下公正さん(押出)



誰もが暮らしやすい、

夢のある地域に

新年を迎えて早や1ヵ月半。早いものです。昨年度は残念ながら開催できませんでしたが、今年度の成人式が1月9日に無事挙行でき、希望を胸に集まった新成人の皆さんの笑顔を拝見し、大きな期待を持って令和4年をスタートすることができました。

一昨年来、新型コロナウイルスがまん延し、私たちの日常生活に大きな影響がありました。公民館においても、役員の皆さんが一所懸命に計画してきた各種行事が中止や縮小ということになり、悔しく残念な想いを持ったものと思います。今年になっても、更なる変異ウイルスであるオミクロン株がまん延し、1日も早いコロナ禍の収束を願うばかりです。

やまざと親子留学と子ども見守り事業

過疎高齢化、そして少子化の波により保育園児や小中学生の数が著しく減少し、園や学校の存続が危惧されている中、南信濃1500委員会が中心となって進めている、やまざと親子留学受入れの取り組みにより、4月から3組の家庭を受け入れることになりました。その継続した取組に地域の将来がかかっていると思います。

公民館でもこの取組に協力する意味から、4月から放課後の子ども見守り事業「遠山郷子どもひろば」を新設スタートし、子育てし易い環境づくりを進めていきます。

合同運動会に生まれ変わる

公民館事業の中で大きく変わるのが「運動会」です。今年の秋の運動会からは、小学校との合同運動会に生まれ変わります。体育委員会では、小学校との議論を重ねながら、子どもからお年寄りまで皆が楽しめる運動会となるよう、鋭意検討を進めています。

公民館の役割は、地域住民の学習意欲への対応、健康づくりの学習や活動、生活文化や伝統文化の継承への支援、様々な趣味のグループ支援など多岐にわたります。そして何よりも、誰もが暮らしやすい夢のある地域づくりに資する取組を進めることだと考えています。

地域の皆様の一層のご支援をお願いします。

南信濃公民館長 酒井郁雄

トオヤマジャーたちが福笑いに挑戦！！

～副館長、分館長の思いを川柳にこめて～

コロナ禍で
嬉し悲しや 五分館
橋南分館長
小松 一隆

トラ(虎)イぞよ
ラッキー笑顔(ガオ～)で
年迎ふ(´▽`)
副館長
御子柴 さゆり

役(厄)当たり
転ばぬ先の
体(大)当たり
副館長兼橋南分館長
松下 東内

若水で
コーヒーお湯割り
トラになる
南和田分館長
山崎 正志

本年も
コロナがはやり
お家飲み
木沢分館長
遠山 孝夫

親子留学
ここで暮らす
世界家族
八重河内分館長
山崎 久孝

さあ、福笑いの正体はいかに！？
正解は8面に！





1月9日、南信濃地域交流センターにおいて、令和3年度 遠山地区成人式が開催され、式典には12名の新成人が参加し、晴れて大人の仲間入りをしました。

みんなで創りあげた成人式

当日を迎えるにあたり、昨年からの新成人実行委員会と両地区公民館役員による実行委員会を組織し、開催に向けて準備を進めてきました。新成人たちは、遠山ジンギスの魅力を学び、遠山郷の魅力を再発見する学習会も実施しました。

式典では、新成人が作成した小中学校9年間の思い出を振り返る映像の上映会から始まり、成人証書の授与、新成人一人ひとりからのスピーチ。自分たちの成長と今までお世話になってきた家族や先生方、そして支えてくれた多くの方への感謝が込められており、会場は笑顔で溢れていました。式典終了後には恒例の皿の絵付け記念事業を行いました。

コロナ禍での成人式は

3段階の検査体制で開催

今回は新型コロナウイルス感染症対策を徹底しながら、開催しました。新成人の皆さんには、事前に簡易検査キットを配布するとともに、式



松沢先生の指導を受ける新成人

典開始前48時間には、地元の医療機関で抗原定量検査を受けてもらい、さらに式典後も簡易検査キットにより陰性の確認をするという3段階の検査体制。また、出席する来賓、保護者、及び公民館役員のスタッフについても、式の前後の検査キットで陰性の確認をしました。

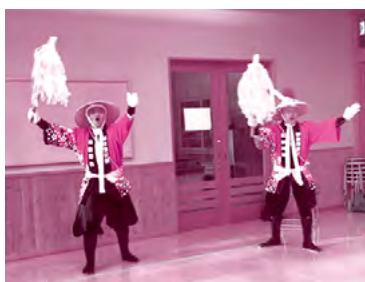
さらに、会場での十分な座席間隔や換気、飲食禁止、式典後の同級会等の宴席自粛等、感染防止対策に取り組みました。

特別企画和田諏訪神社御柱音頭取り

〜新成人お祝いVer.〜

今年度は7年に1度の御柱祭。その年に成人を迎える特別な年であることから企画しました。新成人への祝福を込めたオリジナル音頭をご披露いただき、一生に残る時間を共有しました。

新たな一歩を踏み出した成人式。新しい門出を迎えた成人に、明るい未来が拓け、地域を担う人材としての活躍や、この地に想いを寄せてくれる人になって欲しいと心から願います。成人おめでとうございます。



音頭取りを披露する酒井正也さん(左)と平澤一也さん(右)



よいしょー、よいしょーでお餅つき

今年も、年が明けてすぐ、上村保育園のお友達といっしょにお餅つきをしました。はじめに薪と豆がらを焚きつけ火を焚きます。せいろの中で蒸された餅米は、透き通ってつやつや。まずは一口、もち米を口の中のみしめてお味見です。「おいしいー」と笑顔の子どもたち。身支度をして、いよいよ餅つきです。「よいしょー、よいしょー」と応援を受けてひとり10回ずつきました。つきあがったお餅は、あんこ・きな粉・ゴマ・醤油などでおいしくいただきました。今年も、コロナに負けずに元気に遊べそうです。



スペシャルコンサートで情操教育

1月と2月の講座はコロナ禍のため中止。今回は昨年12月に開催した講座の様子をご紹介します。上村と南信濃合同開催で、リトミック教室でお世話になっている山崎先生によるピアノと、ご友人の宮外先生によるバイオリンのコンサートを開催しました。素敵なおドレス姿に綺麗な音色を奏でて、目や耳で「美しさ」を感じ、親子で幸せな時間を過ごすことができました。3月はパンづくりと閉講式を予定しています。親子にとって、親同士にとって有意義な時間になるよう支援していきます。



山崎先生(左)、宮外先生(右)



今年も1月の「成人の日」に合わせて、吹奏楽アンサンブルコンテストが行われました。コロナ禍のため観客が入れず、演奏者と審査員だけで行われました。写真は12月23日に行われた、「アンサンブルコンテスト壮行会」です。壮行会といえはスポーツの場合、応援団が登場し「フレ〜フレ〜」と大きな声で応援します。しかし吹奏楽の場合は…、静かに演奏に耳を傾けます。冬期間は部活動の時間も少ないため、練習が十分出来ないのが悩みの種。そんな中、精一杯練習してきた成果を、全校の前で披露してくれました。部員3名の勇姿をご覧ください。



アンサンブルコンテスト壮行会

スケートリンクになった校庭で

3学期の初日は、前日に降り積もった10センチメートルほどの雪の校庭で、子どもたちの雪遊びから始まりました。ここ数年は、雪で遊び込めるほどの積雪はなく、これほどまでに満足して雪遊びができること自体、初めての体験だったのでないでしょうか。子どもたちは不思議です。滑って転ぶことが楽しくて、何度も何度も転ぶのです。ツルツルに氷った校庭で、あっちでつるん。こっちでつるん。朝も休み時間も放課後も、毎回校庭へ飛び出して遊ぶ子どもたちの姿を、思わず頬を緩ませながら、ありがたい気持ちで見守っています。



南信濃公民館 インフォメーション

御柱祭

4月3日の御柱大祭に向けて着々と準備が進んでいく中、昨年の12月4日(土)に「前御柱納め式」が行われました。新しく御柱を建てるために、役目を終えた前回の御柱を境内から取り除くという大切な儀式です。

神事が行われた後、早速切り倒されたのですが、それを仕切った杣職の皆さんの仕事



関係者の皆様

ぶりに、見ていて大変感動しました。その動きには一切の無駄がなく、親方の一声で10人からなる杣職全員が適材適所に動き、目標点に向けて一寸の狂いも無く切り倒す。その姿は切り倒された時の轟音と共に「かっこいいい！」の一言に尽きました。

御柱祭りは山の恵みがあったからこそ出来るお祭り。日々、林業に携わり山と一緒に暮らす杣職の皆さんに、何か御柱祭りの原点を見たような、そんな気がしました。

今回の御柱祭りが無事大成



倒す瞬間を見守る氏子



杣職の皆さん



前御柱納め式神事

功することを切に願いたいと思います。「よい、よいならば、やっ」とくれー！」

2022 新春ウォーキング

令和4年1月1日(元旦)、八重河内地区「新春ウォーキング」を開催しました。

八重河内地区では、毎年60人前後の参加をいただき、ウォーキングを楽しみ、初日の出を新たな年の健康と幸運を祈念するお正月の恒例行事となっております。

新型コロナウイルスの影響で中止が続き、3年ぶりの開催となった今回は51名の参加となりました。

当日は心配された天候も雲ひとつない晴天となり、午前9時の花火を合図に島川原をスタートし、梅平へ進み、おだな橋を渡り戻ってくる全長2キロのコースを参加者それぞれのペースでウォーキングを楽しみました。

ゴール地点では、こちらも恒例となっているくじ引きを行い、それ

ぞれ景品を受け取り、皆笑顔で一年のスタートとすることができました。

参加者からは、「みんなで一緒に歩くと2キロの距離も短く感じた」、「少し休んでいたウォーキングを再開しよう」等の声がかれました。

今年はコロナ禍のため、マスク着用、飲食自粛等の感染対策を行った上での開催となりましたが、来年はマスク無くウォーキング出来ることを願います。



ウォーキング出発前

やまなみ戦隊 おしくらまんじゅう

おしくらまんじゅうの巻



「南信濃での思い出がよみがえる」
私の家の玄関には、南信濃村発足30周年記念でいただいた時計が置いてあり、現在も時を刻んでいます。その時計を見るたびに、南信濃での2年間の生活を思い出します。
30年前、私は和田小学校に勤務しており、家族も南信濃に住んでいました。現在3人の子どもたちはそれぞれ独立

し、私は妻と二人暮らしです。
タイムカプセルを掘り出したという知らせは、娘の南信濃に住む知人からあり、すぐに妻と娘がいただきに行きました。保育園にお世話になっていた娘の封筒からは、自分の顔の絵と手形が押された画用紙、当時5年生だった息子の封筒からは、手紙とスキー場の券など、私の封筒には、当時の家族の様子を記したメモと担任をしていた1年生の「学級だより」が入っていました。

30年も経つと、何を入れたのか3人も曖昧でしたが、入っていたものを見ると、瞬く間に当時の様子が思い浮かびます。私は自分が書いた「学級だより」を見ながら、当時の自分の至らなさを痛感しております。そして今思うことは、南信濃の皆さん方に支えていただいていた日があるんだということ。
これからもご恩を忘れず、家族共々頑張っています。ありがとうございました。 (竜丘地区在住 田添荘文)



南信濃村の30周年記念で、いただいた時計です (今も動いています)



タイムカプセルに入っていたもの



2・3面に登場した福笑いの正体は、酒井館長でした!!

現在南信濃が力を入れていく「やまざと親子留学」。この4月からは新たに3組のご家族がこの遠山にやってきます。1組は東京から、2組はなんと海外から!! 遠山谷に新たな風が吹くように感じます。
多様な社会は都会だけでなく、地方にもどんどん広がっています。仕事や暮らし方、人と人の関わり方。様々な価値観が多様化する中、地域はどう接していけば良いのでしょうか。
受け入れる。理解までいかなくても認める。認識する。そんな懐の広い地域でありたい。そう思う今日この頃です。 (広報委員ノリコピン)

